



新緑の季節となりました！！

桜の季節も終わり、新緑がまぶしい季節となりました。4月16日には、「平成17年大鹿さくら祭り」が行われ、5月3日には「大鹿歌舞伎 春の公演」が行われました。今回のくろゆり通信では、その二つの行事を取り上げてみました。

『平成17年 大鹿さくら祭り』

4月16日(土)快晴の中、大鹿さくら祭りが行われました。春先の天候が不順であったため、桜は3分咲きでしたが、「第5代大鹿さくらの女王」のお披露目式もあり、県内外から大勢の花見客が訪れました。「第5代大鹿さくらの女王」のお二人は、さる3月6日に、応募のあった5名の中から選出され、平成18年度までの2年間、大鹿村のPRにご活躍されるそうです。青い空と青い川に挟まれたピンク色のこの風景は、大鹿村でしか見られないものではないでしょうか。また来年のこの季節が楽しみです！

「さくらの女王」の皆さん



花見客で賑わう大西公園



桜満開の大西公園



さくら豆知識

さくらは主として、北半球の温帯に広く分布しているようですが、美しい花の咲く種類はアジアに多く、しかも日本列島が中心で、多くの種類が集中しているそうです。ヨーロッパには、日本のさくらのように花の美しい種類はなく、サクランボ、いわゆるミザクラの類があるそうです。

日本には、ヤマザクラ、オオシマザクラなど9種類を基本として、変種を合わせると100以上のさくらが自生しており、沖縄には野生化した1種があるそうです。また、これらから育成された園芸品種は200以上もあるそうです。(資料引用 財「日本さくらの会」)



『大鹿歌舞伎 春の公演』



国指定無形民俗文化財でもある大鹿歌舞伎



春の公演 演題 「鎌倉三代記 三浦別れの段」
「一谷嫩軍記 熊谷陣屋の段」

5月3日(火) 大磯神社舞台において、「大鹿歌舞伎 春の公演」が行われました。快晴の中、舞台は公演を待ち望んでいた多くの観客の皆さんで埋め尽くされました。今回は二つの演題が演じられ、おひねり、掛け声が飛び交う中、素晴らしい演技を披露されていました。

大鹿歌舞伎は230余年前から、村内各地区の神社の舞台で演じられ、長い歴史の中で様々な苦難を乗り越えながら、村民の暮らしのよりどころとして、その時代時代に生きる人たちが、今日まで大切に継承してきた世界に誇れる素晴らしい文化です。

「春の公演」を観られなかった方は、「秋の公演」(10月の第3日曜日 市場神社舞台)を観られてはいかがでしょうか? きっと、身近にある素晴らしい伝統文化を肌で感じられると思います。

神社を埋め尽くした観客



歌舞伎豆知識

江戸時代より花見や芝居見物などに持つて行くようになったと言われ、最近では新聞・雑誌でも取り上げられ、注目を浴びているお弁当箱「ろくべん」。この地方では、細長い形の6段重ねというのが一般的ですが、全国的には、横並びで何段もある物や重箱のような物、徳利なども入れることが出来る物など様々な形があるようです。

お互いに持ち合ったお弁当をつつきあいながら、大鹿歌舞伎を見物する。この地でしかできない最高の贅沢ではないでしょうか!

当現場を上流より望む



小渋川の護岸工事として、大西グランドの下流で工事を行っております。先日の大鹿歌舞伎の際は、同じく小渋川で工事を行っている2社【(株)伊原工務店、(株)カリス】の方々や駐車場のゴミ拾いを行い、少しではありますがご協力させて頂きました。皆様の御理解、御協力を得まして、安全に工事を完成させたいと思います。工事施工に伴い、お気付きの点がありましたら、遠慮なくご連絡頂きたいと思ひます。

平成16年度 天竜川水系 大河原床固工群工事

大協建設株式会社 現場代理人 堀内隆浩

《連絡先》

【現場事務所】0265-39-1051

【本社】0265-39-2226

【E-mail】taikyou02@gaea.ocn.ne.jp

